

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (行事編)
- 3 俳句 正岡子規 小林一茶 松尾芭蕉
- 4 あそびうた ひとでのうた
- 5 早口ことば 「夏の生夏豆」
- 6 かぞえうた 1匹 1羽 1足 (さかな、カラス、くつした)
- 7 今月の詩 およぐひと 萩原朔太郎
- 8 たし算 5の段
- 9 ことわざ 飛んで火にいる夏の虫 袋の中のねずみ
見ざる聞かざる言わざる 桃栗三年柿八年
- 10 かけ算 6の段
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた キャベツはキャッキャッキャツ
- 13 今月のことば
- 14 今月のうた 富士の山
- 15 四字熟語 悪戦苦闘 意気揚々 単刀直入
- 16 おはなし ありときりぎりす
- 17 童謡 靴が鳴る
- 18 イメージトレーニング 森のお友だち (第5話 探検その2)
(イメージしてみましよう)
- 19 漢詩 廬山の瀑布を望む
- 20 百人一首 二条院讃岐 相模 藤原実方朝臣 前中納言匡房
- 21 復習コーナー
- 22 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

俳句

ほととぎす 月^{つき}ガラス戸^どの 隅^{すみ}にあり

まさおかしき
正岡子規



せみ^な鳴くや つくづく^{あか}赤い 風車^{かざぐるま}

こばやしいっさ
小林一茶



おもしろうて やがてかなしき 鵜舟^{うぶね}かな

まつおばしょう
松尾芭蕉



《ひとでのうた》

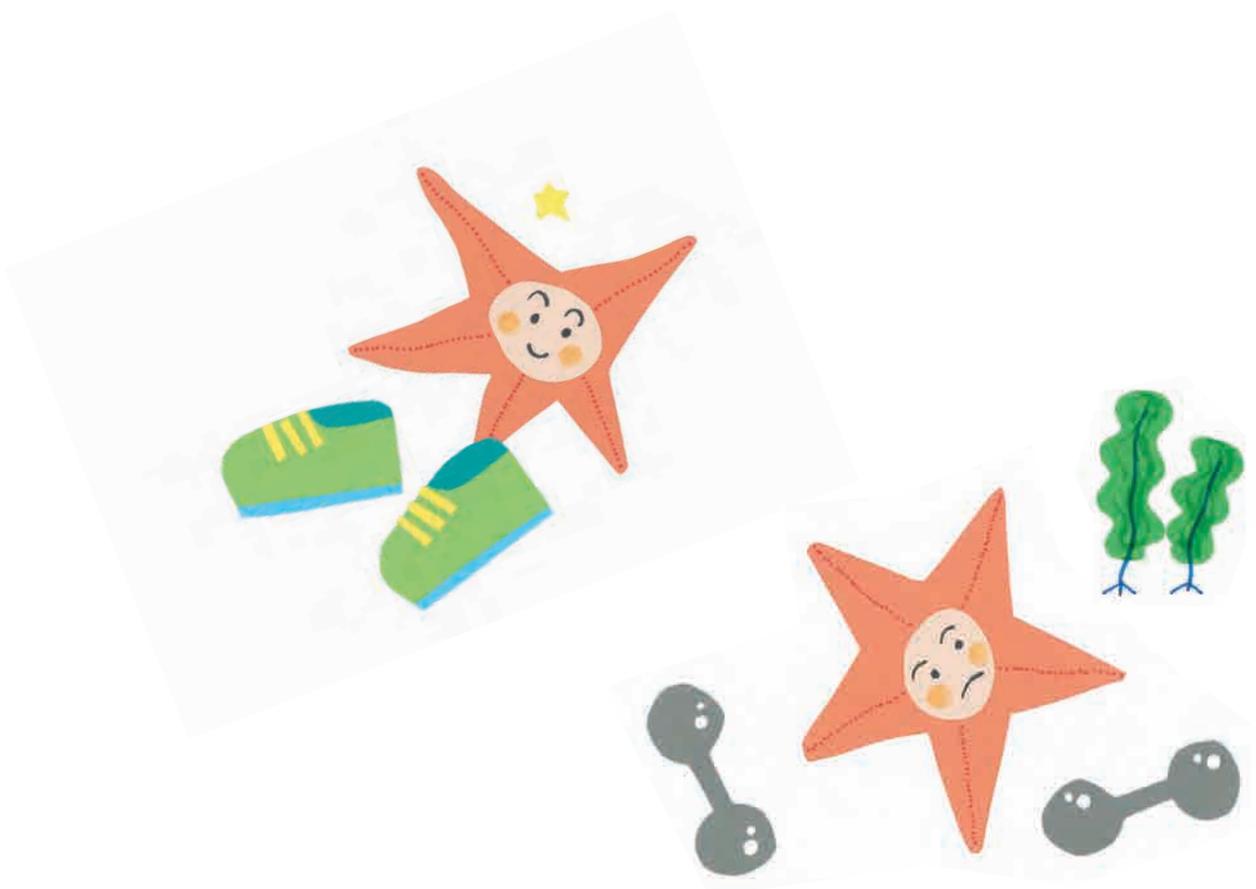
ひとでのあしはどこにある

ひとでのうではどこにある

ひとでのあたまはどこにある

ああ ふしぎなふしぎな うみのほし

ああ ふしぎなふしぎな うみのほし



およぐひと

はぎわらさくたろう
萩原朔太郎

およぐひとのからだはななめにのびる

二本^{にほん}の手^てはながくそろえてひきのばされる

およぐひとの心臓^{こころ}はくらげのようにすきとおる

およぐひとの瞳^{ひとみ}はつりがねのひびきをききつつ

およぐひとのたましいは水^{みず}のうえの月^{つき}を見る



と ひ なつ おし
飛んで火にいる夏の虫

みずからすすんで危険や災難に身を投じること。



ふくら なか
袋の中のねずみ

どんなにあがいても逃げ出すことのできない状態。



み き い
見ざる聞かざる言わざる

自分に関係のないことや他人の欠点などについて、
批判的な言葉は述べない。



ももくりさんねんかきはちねん
桃栗三年柿八年

桃と栗は芽が出てから三年、柿は八年たてば実を
結ぶ。どんなものにも、それなり
の年数がかかる。



なぜなぜ

- 1 とらがついてるけれど、動物ではない乗り物はなあに？
- 2 ロープにぶら下がって山から山へつなわたりする乗り物はなあに？
- 3 病気の人やけがをした人を急いで運ぶ乗り物はなあに？
- 4 足でこがないと前に進まない乗り物はなあに？



手あそびうた

《キャベツはキャッキャッキャッキャ》

① キャベツは



て手は^{した}下へ

② キャッキャッキャッキャ



て手をおさるさんのように
キャッキャとうごかす

③ キュウリは
キュッキュッキュツ



て手でタオルをしぼる
ようにする

④ トマトは
トントントン



て手をグーにして
トントントン

⑤ レンコンは
コンコンコン



てかた手を^{うえ}上にあげ
あたまをコンコンコン

⑥ レタスは
パリパリパリ



て手のひらをあわせて
^{うえ}上、^{した}下にうごかす

⑦ にんじんは
ニンニンニン



てかた手のひとさしゆびを
たて、にんじゃのポーズ

⑧ たまねぎ
エンエンエン



なくまねをする

⑨ モヤシは
モジャモジャ



くすぐるまねをする

《富士の山》

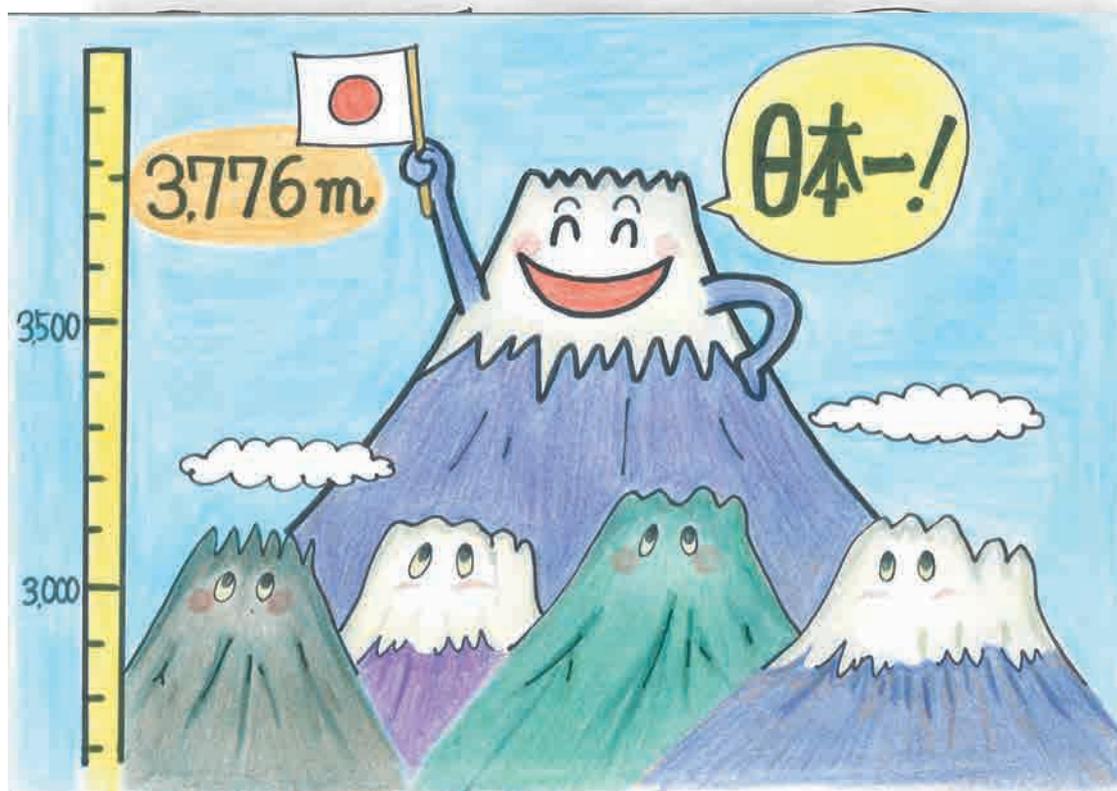
富士山ふじさんに よくにた お山やま
さがしてみよう 見みてみよう

利尻りしり岳だけは
岩手いわて山さんは
磐梯ばんだい山さんは
妙高みょうこう山さんは
飯野いいの山やまは

利尻りしり富士ふじ
南なん部ぶ富士ふじ
会津あいづ富士ふじ
越後えちご富士ふじ
讚岐さぬき富士ふじ

羊蹄ようてい山ざんは
岩木いわき山さんは
鳥海ちょうかい山ざんは
大だい山せんは
開聞かいもん岳だけは

蝦夷えぞ富士ふじで
津軽つがる富士ふじ
出羽でわ富士ふじで
伯耆ほうき富士ふじ
薩摩さつま富士ふじ



あくせんくとう
悪戦苦闘

困難を乗り越えるために、懸命に努力すること。



いきようよう
意気揚々

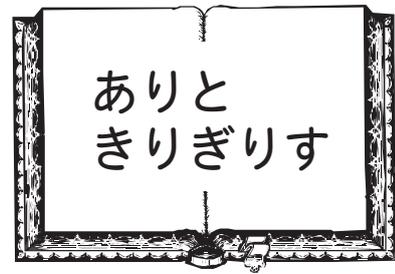
得意で元気あふれるさま。



たんとうちよくにゅう
单刀直入

余談や前置きをぬきにして、直接問題の要点に入る
こと。

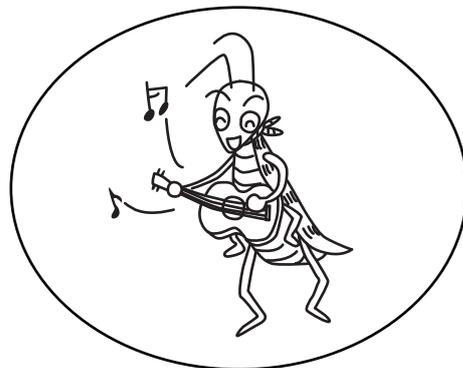
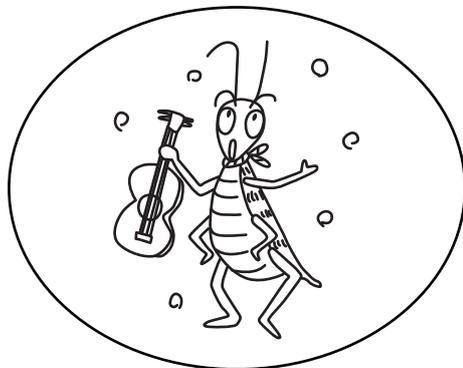




「ありときりぎりす」は、^{はたら}働き者のありと^{なま}怠け者のきりぎりすのお話です。

お話を聞いた^{あと}後で、^{しつもん}質問にこたえてみましょう。

- 1 ^{あつ}暑い^{なつ}夏^ひの日に、きりぎりすはどうしていましたか。
- 2 ありは、どうしていましたか。
- 3 ありはなぜ、そうしていたのですか。
- 4 きりぎりすは、ありに^{なん}何^いと言って^{あそ}遊びに^{さそ}誘ったのですか。
- 5 あなたなら、きりぎりすとありの^{せい}生活^{かつ}のどちらをえらびますか。



廬山の瀑布を望む

李白

日は香炉を照らして
紫煙生ず

遥かに看る

瀑布の長川を挂くるを

飛流直下
三千尺

疑うらくは是れ

銀河の九天より落つるか



百人一首

高^{たか}砂^{さご}の
尾^{おの}上^えの
外^と山^{やま}の
霞^{かすみ} 咲^さき
立^たたずも
あ^あら^らな^なむ

(前中納言匡房)

か^かく^くと^とだ^だに
え^えや^やは^はい^いぶ^ぶき^きの
さ^さしも^も知^しら^らじ^じな
燃^もゆる^る思^{おも}ひ^いを

(藤原実方朝臣)

恨^{うら}み^みわ^わび^び
干^ほみ^みぬ^ぬ袖^{そで}だ^だに
恋^{こい}に^に朽^くち^ちな^なむ
あ^ある^るも^もの^のを
名^なこ^こそ^そ惜^おし^しけ^けれ

(相模)

わ^わが^が袖^{そで}は
潮^{しほ}干^ひに^に見^みえ^えぬ
人^{ひと}こ^こそ^そ知^しら^らね
沖^{おき}の^の石^{いし}の
乾^{かわ}く^く間^まも^もな^なし

(二条院讚岐)



二条院讚岐